

【 第15回熊本大学定例学長記者懇談会 】

日 時： 令和4年9月14日（水） 14：00～15：00（予定）

場 所： 本部棟1階 大会議室

本学出席者： 熊本大学長 小川 久雄（カワ ヒサ）

理事・副学長（研究・グローバル戦略担当）大谷 順（オホニ ジュン）

理事・副学長（大学改革・評価担当）富澤 一仁（トミザワ カズヒト）

理事（広報・ブランディング・行政連携担当）宮尾 千加子（ミヤオ チカコ）

内 容：

1. 文部科学省令和4年度大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業～SPARC～」の採択について（資料1）
2. ウクライナ難民支援日本人学生ボランティア活動報告について（資料2）
3. その他
 - ・令和3年度大学入学者選抜における好事例の選定について（資料3）
 - ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定等について（資料4）
 - ・工学部3年次編入学定員の増員について（資料5）

※新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底した上で開催いたします。

報道発表



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

令和4年8月30日

令和4年度大学教育再生戦略推進費 「地域活性化人材育成事業～SPARC～」の選定結果を公表します

令和4年度「地域活性化人材育成事業～SPARC～」について、独立行政法人日本学術振興会において運営される「地域活性化人材育成事業～SPARC～委員会」の審査を踏まえ、本年度の採択事業を決定しましたのでお知らせします。

1. 事業の目的

本事業「地域活性化人材育成事業～SPARC～」は、地域社会と大学間の連携を通じて既存の教育プログラムを再構築し、地域を牽引する人材を育成することを目的としています。

2. 審査状況

令和4年3月8日付けで各国公私立大学長宛てに公募を行い、5月23日から27日に各大学等から9件の申請を受け付けた後、「地域活性化人材育成事業～SPARC～委員会」における審査を踏まえ、このたび別紙のとおり6件の事業が選定されました。

3. 参考

本選定結果について、文部科学省ウェブサイトでも公表します。

URL : https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sparc/index.htm

(お問い合わせ)

文部科学省高等教育局大学振興課
大学改革推進室

室長補佐 早川 慶
学務係長 久保 真理

電話 03-5253-4111 内線 3034
03-6734-3334 (直通)

独立行政法人日本学術振興会人材育成事業部

大学連携課長 遠藤 章憲
大学連携課長代理 鈴木 俊亮

電話 03-3263-1757 (直通)

「地域活性化人材育成事業～SPARC～」申請・採択状況

(1) 申請件数

件数	9
----	---

<事業に参画する大学数（設置形態別）>

		参画する大学数	うち事業責任 大学数
大学	国立	9	9
	公立	5	0
	私立	10	0
	小計	24	9
短期大学	公立	1	—
	私立	1	—
	小計	2	—
合計	国立	9	9
	公立	6	0
	私立	11	0
	小計	26	9

(2) 採択件数

件数	6
----	---

<事業に参画する大学数（設置形態別）>

		参画する大学数	うち事業責任 大学数
大学	国立	6	6
	公立	4	0
	私立	5	0
	小計	15	6
短期大学	公立	1	—
	私立	1	—
	小計	2	—
合計	国立	6	6
	公立	5	0
	私立	6	0
	小計	17	6

※参画する大学：プログラムに参加し、事業に取り組む大学

※事業責任大学：プログラムに参加する大学・地方公共団体・企業等（事業協働機関）の取組の取りまとめを行う事業実施の中心となる大学であり、事業申請の際に申請者となる大学

(3) 採択校等一覧

【タイプ①】

事業責任大学	事業名称	対象地域	事業協力機関				
			参加校	地方公共団体	企業・経済団体	金融機関	その他
山梨大学	知(地)のソーシャルキャピタル～学びの山梨モデル～構築事業	山梨県	山梨県立大学	山梨県	(公財)やまなし産業支援機構・(公社)やまなし観光推進機構・専修学校山梨予備校	山梨中央銀行	—
信州大学	「しあわせ信州」を創造する地域活性化高度人材育成プログラム	長野県	長野大学、佐久大学	長野県	一般社団法人長野県経営者協会	株式会社八十二銀行	長野工業高等専門学校
山口大学	ひとや地域(まち・文化・教育)のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成	山口県	山口県立大学、山口学芸大学	山口県、山口市	山口経済同友会、山口県経営者協会、公益財団法人やまぐち産業振興財団	一般社団法人山口県銀行協会、山口県信用金庫協会、山口銀行	山口しごとセンター

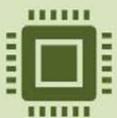
【タイプ②】

事業責任大学	事業名称	対象地域	事業協力機関				
			参加校	地方公共団体	企業・経済団体	金融機関	その他
岐阜大学	ぎふ地域創発人材育成プログラム ～地域活性化を目指した知的基盤の確立～	岐阜県	中部学院大学、岐阜市立女子短期大学	岐阜県、岐阜市、中津川市、高山市	岐阜県経営者協会、岐阜県中小企業家同友会、長良川温泉若女将会、柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社、Global Mobility Service 株式会社	十六銀行	—
熊本大学	くまもとの未来を拓くグローバルDX人材育成プロジェクト—地域社会と国公私3大学の連携による“くまもと型文理融合DX教育”の構築を目指して—	熊本県	熊本県立大学	熊本県、熊本市	熊本経済同友会、一般社団法人熊本県工業連合会、一般社団法人熊本県情報サービス産業協会	株式会社 肥後銀行	—
宮崎大学	新しい価値を創造し持続可能な地域づくりを牽引する『多様な未来共創人材』の育成プログラム	宮崎県	南九州大学、宮崎国際大学、宮崎学園短期大学	宮崎県、宮崎市、都城市	宮崎県商工会議所連合会、宮崎県商工会連合会、宮崎県中小企業団体中央会、宮崎県工業会、宮崎県農業協同組合中央会、宮崎県産業振興機構	宮崎銀行、宮崎太陽銀行、宮崎県信用金庫協会	連合宮崎

文部科学省ホームページ

(https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sparc/index.htm)

熊本地域



人材像



DX



グローバル

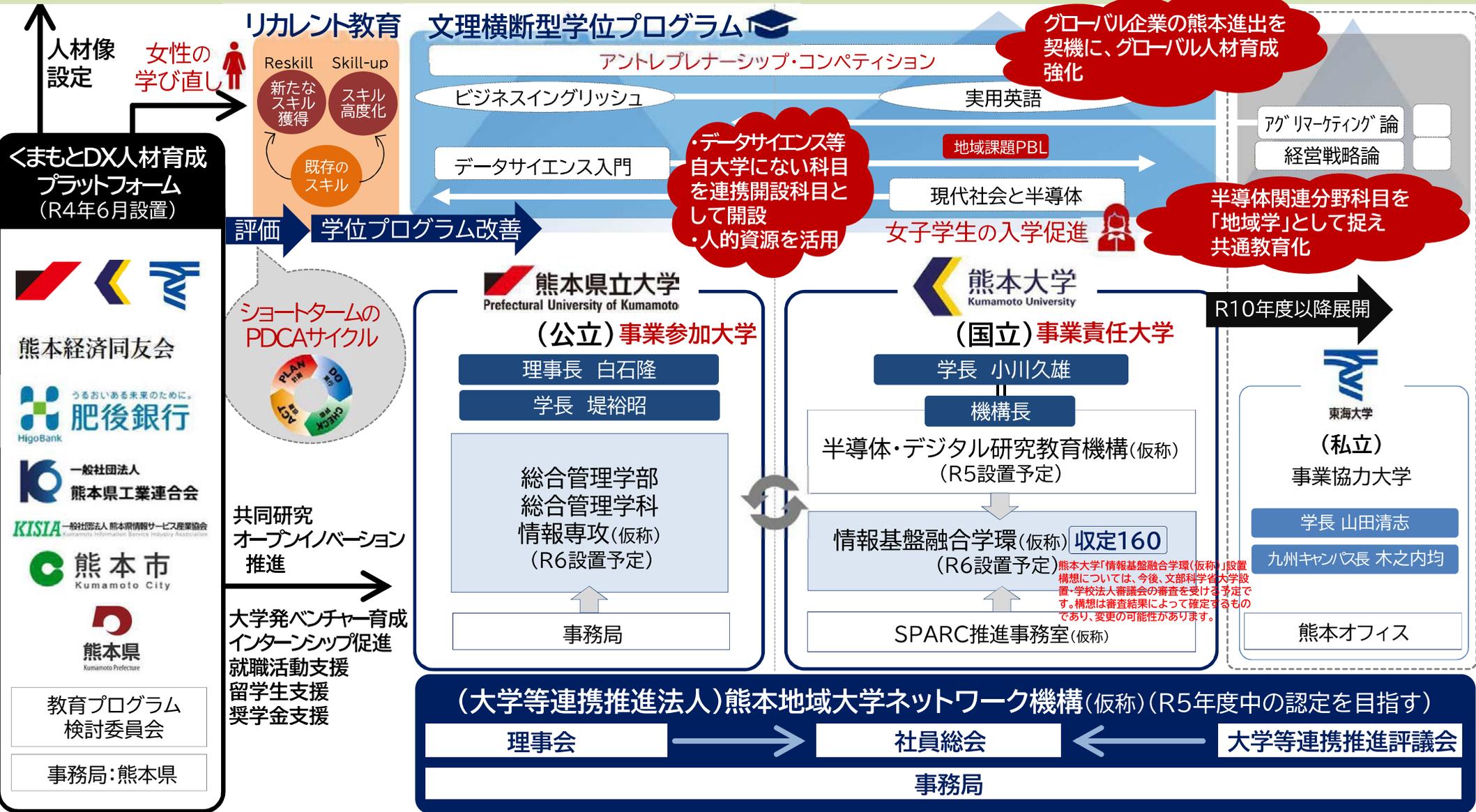


半導体

効果

地元就職率UP 51%→**70%**
 地域が求める人材UP 42%→**90%**
 グローバルコミュニケーション能力UP 1.8%→**10%**
 数理・データサイエンス・AIスキルUP 0→**2大学**
 女性の活躍推進 23%→**45%**

Dくまもと型文理融合
 X教育構築
 10校入展開
 シアム熊本
 大学コンソーシアム



ウクライナ支援 活動報告

熊本大学 法学部 2年
野尻 有紗

目次



- 01 活動概要
- 02 現地での活動
- 03 活動の振り返り
- 04 今後の目標
- 05 質疑応答

01 活動概要



協力: SocialWork HUB

主催: 日本財団
ボランティアセンター



The Volunteer Program for Ukraine 【Group4】

詳細

6月25日(土)午前中に、申し込みいただいた方全員にメールをお送りしますので、必ず確認をお願いします。
迷惑メールフォルダ等に振り分けられてしまう可能性もあるため、すべてのメールフォルダをご確認ください。

※派遣期間および活動場所は現在最終調整中です。表示のある期間内の約2週間の派遣を予定しています※

<募集にあたって>

日本財団ボラセンでは、ウクライナ隣国で支援活動に参加する日本人学生を募集します。
本件は、10月ごろまで行われる全7回の学生ボランティア派遣のうち、**4回目 (Group4)** の募集です。

実施の背景

ウクライナでは多くの人々が周辺国に避難しており、日本財団ではポーランド国境付近に職員を派遣するなどして情報収集を行ってまいりました。

現地の様子は、noteに書いています。ぜひご参照ください。

https://note.com/i_kabasawa/n/n2342895caa34

https://note.com/i_kabasawa/n/n06b60d9d4a3a

https://note.com/i_kabasawa/n/n33edf06a5c5b

その上で、当センターでは、日本財団との連携のもと、周辺国への避難民に対する医薬品等配布の支援や、地元関係者の活動をサポートする学生ボランティアを日本から派遣することとなりました。

現地の人々の避難生活を支援すると共に、学生に対して国際活動の機会を提供することを目指して、本事業を実施します。

日程

2022/08/17 12:00 ~
2022/09/03 23:00

開催場所

ポーランド、スロバキア、オーストリア等、避難民が多く逃れた国・地域を予定

申し込み: 6/24(金) 13:00

402/15人

登録は締め切られました

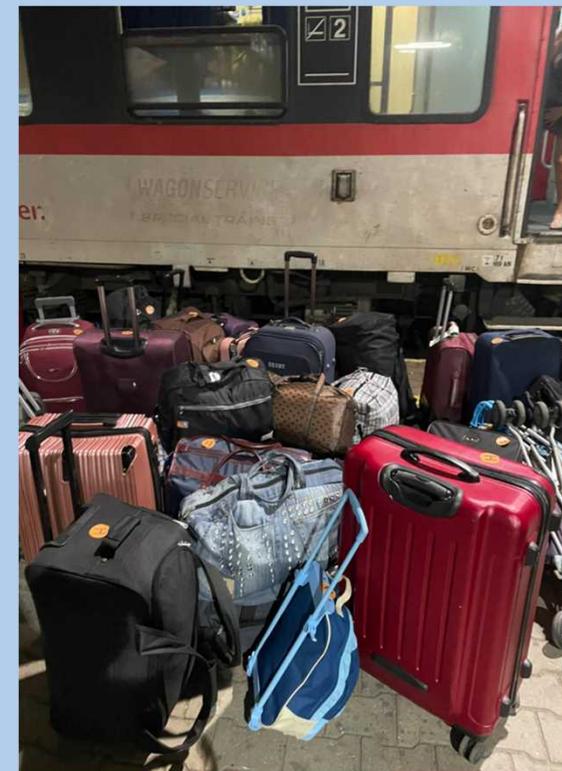


主催: 日本財団ボランティアセンター
(協力: SocialWork HUB)

01
活動概要

Group4	予定
8/15(月)	出国
8/16(火)	イスタンブール空港経由 ウィーン(オーストリア)着 Social Work HUBにてオリエンテーション(ウィーン泊)
8/17(水)	バスでプシェミシル(ポーランド)へ移動
8/18(木)~8/27(土)	10日間の活動
8/28(日)	バスでウィーンへ移動(ウィーン泊)
8/29(月)	マウトハウゼン強制収容所見学(ウィーン泊)
8/30(火)	ウィーン発 イスタンブール空港経由
8/31(水)	帰国

①プシェミスル駅での荷物運び・ゴミ拾い



2日に1回の
ドイツ行き無料列車

①プシェミシル駅での荷物運び・ゴミ拾い



直前に活動した
Group3の学生が
設置した
ポスター



②Warehouse(一時避難所)の立ち上げ



- ・カーペット敷き
- ・トイレ掃除
- ・運営方法決め



② Warehouse(一時避難所)の立ち上げ



③Arrival center(ウィーン)での出来事



折り紙の寄付



壁に飾られた絵



子どもたちと遊ぶ様子

03
活動の
振り返り

- ・全国各地から集まった学生との出会い
- ・どんな状況でも前に進み続けるメンバーの姿
- ・活動中に感じた無力さ
- ・寄り添うとは何か？
- ・日本でもできる支援



自身の経験を伝える

授業を通して発表

- ・ボランティア実践(10月1日(土)予定)
- ・Multidisciplinary Studies
- ・GLC Foundation Seminar

- ・日本人学生だけでなく、留学生にも伝える



日本での継続的な支援

ディスカッション

- ・自身の経験を伝え、日本でもできる支援について若い世代の人と考える
(例)日本語支援

- ・グローバル視点から、国際支援・国際協力について考えを深める

- ・世界で起こっていることから目を背けず、アクションを起こしてほしい



大学入学者選抜における 好事例集



令和4年8月
文部科学省高等教育局



目次

はじめに	4
令和3年度大学入学者選抜における好事例の試行的な選定結果について（選定委員会所見）	5
別添 大学入試のあり方に関する検討会議（令和3年7月8日提言）（抄）	6
北海道大学「総合型選抜」選定区分： 工	7
小樽商科大学「グローバル総合入試」選定区分： ア	8
宮城大学「総合型選抜」選定区分： イ 工	9
東京外国語大学「英語スピーキング試験」選定区分： ア	10
東洋大学「英語外部試験の利用」選定区分： ア	11
金沢大学「KUGS特別入試」「超然特別入試」選定区分： 工	12
藤田医科大学「ふじた未来入試」「一般入試」選定区分： イ	13
京都大学「特色入試」選定区分： イ	14
京都工芸繊維大学「ダビンチ入試」選定区分： ア イ	15
奈良女子大学「探求力入試『Q』」選定区分： イ	16
島根大学「へるん入試」選定区分： 工	17
高知大学「総合型選抜Ⅰ（医学科）」選定区分： イ	18
長崎大学「一般選抜」選定区分： イ	19
国立六大学連携コンソーシアム「ペーパーインタビュー」選定区分： 工	20

目次

熊本大学「肥後時修館」選定区分： 工	21
東京電機大学 選定区分： ウ	22
東洋大学 選定区分： ウ	23
福岡県立大学 選定区分： ウ	24

本件担当

文部科学省
高等教育局大学振興課
大学入試室入試第四係

※選定区分:

ア	総合的な英語力の評価・育成
イ	思考力・判断力・表現力の評価・育成
ウ	多様な背景を持った学生の受入れへの配慮
工	高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進
才	文理融合の推進やその他の好事例

連絡先

TEL : 03-5253-4111
(内線4915,4757)

MAIL:
nyusichosa@mext.go.jp



はじめに

事例集作成の目的

- 令和3年7月に取りまとめられた「大学入試のあり方に関する検討会議提言」においては、記述式問題の出題や総合的な英語力の育成・評価、多様な背景を持つ学生の受入れなどについて、他大学の模範となる先導的な取組を推進するため、客観的なデータを踏まえたピアレビュー等に基づき好事例を認定し公表することが提言されています。
- これを踏まえ、文部科学省において、令和3年10月に「大学入学者選抜における好事例選定委員会」を設置し、高大接続改革や大学入学者選抜方法の改善を一層促進する観点から、実態調査の結果等を踏まえ、他大学の模範となる好事例を試行的に選定し、本事例集を取りまとめました。

好事例の選定方法



- 各大学から好事例と考えられる取組について申請いただき、提出された書面をもとに選定委員会において審査を実施しました。
- 詳細については、次ページの選定委員会所見をご覧ください。

Go

令和3年度大学入学者選抜における好事例の試行的な選定結果について（選定委員会所見）

- このたび、各大学からいただいた84件の申請の中から他大学の参考となり得ると考えられる取組を18件選定し、好事例集として取りまとめましたので、入試についてご検討する際の参考にしていただけますと幸いです。
- 選定方法としては、各大学から好事例と考えられる取組について申請いただき、提出された書面をもとに審査を行いました。申請いただいた大学には深く感謝申し上げます。また、今回、特色あると思われる取組であっても、提出された書面上から十分に内容を把握できなかったこと等により、残念ながら選定に至らなかった取組が多数ございましたが、いずれの大学も様々な工夫に取り組まれていることがうかがえ、入学者選抜に対するご努力やご熱意に対し敬服する次第です。
- さて、選定にあたっては、「大学入学者選抜のあり方に関する検討会議提言（R3.7.8文部科学省）」（別添参照）を踏まえ、特に推進が求められている

ア	総合的な英語力の評価・育成
イ	思考力・判断力・表現力の評価・育成
ウ	多様な背景を持った学生の受入れへの配慮
エ	高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進
オ	文理融合の推進やその他の好事例

を選定の対象項目として設定しました。



- さらに、左記の項目について、学力の3要素を適切に評価・判定するとともに、高校での学びを大学での学びに繋げていくような入試が行われているかという視点から、例えば…

- 求める能力や測定方法を明示し、受験生に対して、高校でどのような学習や活動をすればよいのか分かりやすく説明しているか
- 求める能力を実際に測定できていることを示す検証結果（エビデンス）があるか
- マンパワー等を含めて無理なく継続できる体制・仕組みとなっているか
- 新規性・先進性（従来の取組の発展形を含む）があり、他大学の参考となり得る工夫が見られるか
- 入試だけでなく入試前後の教育を含め、高校での学びから入学後の学びまでが有機的に繋がっているか

等といったことが重要であると考え、これらを含めて選定の観点を設定しました。

- 一方、選定の過程では、成果の検証に関する情報が少なかったり、判定基準等について非公開としている大学が多いなど、好事例として選定すべきかどうかを客観的に判断するには情報が不足していたという課題もありました。

- 本委員会では、試行的な選定の経験を踏まえ、令和4年度大学入学者選抜における好事例の選定に向けて調査項目や選定の観点の見直しを行い、更なる充実に努めてまいります。また、大学から提出された書面をもとに審査を行いますので、各大学におかれましては、他大学の参考となる情報やデータについて可能な範囲で詳細に書面に記載いただけますと幸いです。

国立六大学連携コンソーシアム「ペーパーインタビュー」

選定区分： **工** 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

－ 資質や特性、能力等の評価を書面で行う新たな筆記試験 － ※熊本大学で導入

参照：熊本大学 入試案内

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi?msclid=5017f4a7d0c811ec9404e678c2d851c4>

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）
対象学部：文学部、法学部、理学部、工学部
募集人員：50人（学部全体の約5%）
入学者数：44人（志願倍率約1.8倍）

- 国立六大学連携コンソーシアム（千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学で構成。平成25年に設立）の入試専門部会において、「**多面的・総合的評価**」のためのペーパーインタビュー（口頭のやり取りで得たい情報を紙面に書かせ、従来の面接に代わり資質や特性、能力等の評価を書面で行う新たな筆記試験）を開発。
- 熊本大学では、全国に先駆けて、総合型選抜のグローバルリーダーコース入試に導入。
- 試験当日は**60分の筆記試験**を実施し、**統一された評価基準や考え方**に基づき、学部等の教員から選出された評価者が評価。
- 高校で受験者が経験したことに対する「主体性等の多面的評価」を行うもので、**特に高校在学時に培ったリーダーとしての経験資質等を評価**。

導入に至る背景・課題等

- 国立六大学連携コンソーシアム入試専門部会で開発された「多面的・総合的評価」のための新たな筆記試験であるペーパーインタビューは、**各大学が高校生を対象とした事前の試行を経て開発**され、**評価の信頼性を確かめた上で導入**。
- 従来実施していたグループワークが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実施困難となり、それに代わる選抜方法としても導入。

アドミッション・ポリシー等との関係

- 総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）を実施している文学部、法学部、理学部及び工学部において、カリキュラム・ポリシー（CP）にグローバルリーダーに必要な資質・能力の修得に関して定め、アドミッション・ポリシー（AP）に**グローバルリーダーに関する能力**を定めている。
- これに基づき、入学者選抜において、ペーパーインタビューを実施し、**グローバルリーダーに関する資質・能力を審査**。

制度設計のポイント

- ペーパーインタビューにより「**多面的・総合的評価**」を効果的に行うことで、一般選抜で入学する学生と比較して、より高いリーダーシップと意識を持つ学生の入学が期待。
- **同一の評価基準を用いて書面により実施**するため、通常の面接・グループワーク等と比較して、**採点の公平性等の向上**が期待。
- 書面により実施するため、通常の面接・グループワーク等と比較して、**面接を得意としない受験者であっても、資質、特性及び能力等の評価をより効果的に実施可能**。
- 対面で行う面接に比べ、教職員の従事時間及び受験者の待機時間を含めた**拘束時間を短縮**できる。
- また、質疑応答の発言や座席等の入れ替わり等も発生しないことから、**新型コロナウイルス感染症の影響下においても安全な試験実施**が可能。

実施体制

- 評価（採点）者に対して共通理解をもって評価することを目的に、ペーパーインタビューの説明と評価の項目・方法・基準等の説明を行う**評価者説明会**を実施。

- 受験者全員が同一の試験室で一斉に受験するため、**面接室への誘導や待機者監督業務なども省力化**でき、**従事する教職員についても従来の面接試験の2/3程度**となった。

成果の検証

- ペーパーインタビューを導入して間もないこともあり、現状、分析・改善に資するデータが少ないため、総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）での本選抜方法の有効性について、今後の追跡調査が必要。
- 追跡調査の内容としては、多面的評価として審査した能力と学修成果等との関係を調査する予定。

好事例選定委員会委員コメント

- **高校の実状や大学の成績との関連などを綿密に検討した上で開発**されており、好事例といえる。
- 今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。

熊本大学 ペーパーインタビュー問題例

問：現在、勉強やそれ以外の趣味などで指導者や教科書などの学びの枠を超えて、あるいはそれらの学び以外に、自ら進んで努力していることがありますか。それはどのようなことですか。具体的に教えてください。もし該当する事柄がなければ、これからやってみたいと思っていることや過去に行ったことでも構いません。複数思いつく人はその中からどれか1つを選んで教えてください。どんな些細なことでも構いません。下記の①～⑥の質問に留意して解答してください。

- ① いつ頃、どのようなことか。
- ② 自ら進んで努力しようと考えた理由は何か。
- ③ 具体的にやっている努力はどのようなことか。それを行うことでどのようなことを期待しているか。
- ④ 現在も努力を続けているか。継続の理由は何か。努力を止めている場合は、その理由を述べる。
- ⑤ すでに何か結果・成果を得ているなら記述する。最終的な目標はどのようなものか（より具体的に記述する）。
- ⑥ その努力を通して得たことは何か。今後、質問と同じような状況になったらどのように行動するか。

実施概要

- 熊本県内の高校生を対象としたグローバルリーダー育成塾「熊本大学肥後時修館」を令和元年度に開校し、グローバル教育をはじめ数理教育等の高大接続教育を実施。
- 具体的には、令和3年度に以下の内容を半年間実施
 - 英語による特別授業、留学生との特別課外活動
 - 数学の証明問題等を活用した課題解決やコミュニケーション時に必要な思考法を養う授業
- 県内の高校1～2年生を対象に、各テーマ10名程度を募集。

導入に至る背景・課題等

- 本学への進学に限定することなく、グローバルリーダー育成のための早期教育を実施し、Student Mindsetを涵養することを目的。
- スーパーサイエンスハイスクール事業、スーパーグローバルハイスクール事業及び「探求を重視する授業」の実施等に見られる高校の教育の変化に対応する本学の取組として位置づけ。
- 本プログラムを修了し、本学の総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）に出願した場合は、出願書類の一つである、「活動歴報告書」において評価。

アドミッション・ポリシー等との関係

- 本学共通のカリキュラム・ポリシー（CP）に、「多様な文化や価値観を知り、グローバルな視点で考え、国際社会やその中にある地域で知性的に行動をするための知識と技能を身に付けることができる」ことを定めている。
- また、アドミッション・ポリシー（AP）に「グローバルな視野を持ちつつ、地域社会や世界が抱える課題の解決に貢献する意欲を持つ人」を定めている。熊本大学肥後時修館は能動的にこのような人材を発掘し、育成するもの。

制度設計のポイント

- 令和3年度選抜では、修了者のうち、実際に本学の総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）を経て入学した者がいる等、**高大接続教育を実践する取組**として機能。
- 対面授業のほか**オンラインを活用した遠隔教育**も実施。受講に関する利便性が高く、より多くの受講者にグローバルリーダーの育成を目指した教育プログラムを実施することで、**県内の人材育成に貢献**。
- 入学前の高校生に対して大学での教育を提供することで、**より深い学びを体験してもらい、高校教育と大学教育間のギャップを解消**。

実施体制

- 本学の**大学教育統括管理運営機構教員及び関係事務部**が、①募集要項作成及び県内高校への告知②申請書類等受付及び書類審査③受講許可証等の作成及び送付④講義資料等準備及び講義当日の対応⑤修了証明書の作成及び交付、の業務を実施。
- 令和3年度については、**11月から3月に渡り本学LMS（学習運営システム）を使用し、オンデマンド形式**（プレゼンなどは一部オンライン形式）で2テーマを開講。



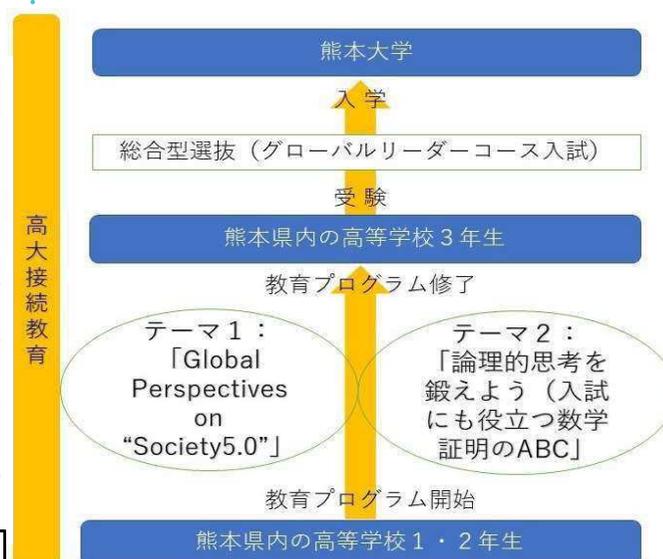
10月～3月 各90分×15回の授業

成果の検証

- 本プログラムは、必ずしも本学への進学を求めるものではないが、より受講者が本学に魅力を感じ、入学に繋がるよう、**教育プログラムの改善を継続**していく必要がある（受講者アンケートでは、**多数の肯定的意見**が寄せられている）。
- 既に総合型選抜における多面的評価の一部として活用しているが、今後の追跡調査等を踏まえ、**開講科目について本学入学後の単位化を目指す等の取組を推進**する予定。

好事例選定委員会委員コメント

- 県内の高校との緊密な連携により、**高校生の時点で大学の学修を体験することを通じた人材育成**ができています。
- 今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。



プログラムの目的

本学の数理・データサイエンス・AI教育の推進を行い、AI・データを使いこなす力やデータサイエンスを活用して新たな価値を生み出す能力を備えた人材を輩出する。

身につけることができる能力

データサイエンスの手法とAIの仕組みを理解し、学習内容を応用発展させる基礎力が身に付けられる。現代社会におけるAI・データサイエンスの利点および注意点が理解できる。

プログラム科目	文学部・教育学部 法学部	理学部	医学部 医学科	医学部 保健学科	薬学部	工学部
必須科目	情報基礎A					
	情報基礎B					
	文系のための数学入門a	統計学I	数学の世界c	保健衛生統計学	数学の世界c	確率統計
選択科目	文系のための数学入門B 文系のための数学入門C	微分積分I・II 線形代数I・II	数学概論 統計学概論		数学概論 統計学概論	微分積分I・II 線形代数I・II

* 必須科目の単位の修得を修了要件とし、選択科目は履修を推奨する科目である

熊本大学 大学教育統括管理運営機構

教務委員会

カリキュラム評価委員会
(自己点検・評価)

熊本大学教務委員会

数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門委員会

プログラムの運営・内容と質の向上

大学教育統括管理運営機構教養教育実施本部
数学・統計学会

大学教育統括管理運営機構教養教育実施本部
情報科目部会

附属数理科学総合教育センター

- ・ 入学時ガイダンスでのプログラム周知
- ・ 教員が駐在し、数理・データサイエンス科目に関する質問を常時受付
- ・ ホームページにて数理・データサイエンス科目演習問題の掲載
- ・ 教育の質向上のための数理データサイエンスセミナーの実施
- ・ 地域・協定校と連携し、県内の数理・データサイエンス教育の強化・促進

熊本大学

数理データサイエンス

AI 教育プログラム

開講しています!

$$\Phi(z) := \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \int_z^\infty e^{-\frac{1}{2}x^2} dx$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} P(|\bar{X} - E(\bar{X})| \geq \varepsilon) = 0$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} P\left(a \leq \frac{\bar{X}_n - \mu}{\sqrt{\frac{\sigma^2}{n}}} \leq b\right) = \Phi(b) - \Phi(a)$$

DX時代に活躍できる人材を育成するため、理系文系を問わず全学部を対象としてデータサイエンス教育を行っています。

下記必修科目以外にも対象科目があります。ぜひ履修してみよう!

DXとは…Digital Transformationの略。データやデジタル技術によって社会生活やビジネスが変容していくこと。

令和4年度開講科目

文・教・法	理	医-医	医-保	薬	工
文系のための 数学入門	統計学Ⅰ	数学の 世界C	保健衛生 統計学	数学の 世界C	確率統計
情報基礎 A・B					

DX 人材の育成は、今後の日本の重要な課題!

DXの成功例

医療

AI / 機械学習による健診データを利用した将来の疾患発症予測や海外渡航帰国者の熱帯感染症の疾患の判別など。

生物学

ビッグデータ解析によりゲノム解析のスピードアップとコストダウンにより遺伝子研究が進化。

インターネット通販

顧客の注文履歴を参考にAIが学習・分析することで、次に何をかうかを予測し顧客にスムーズに商品を配達できるように商品を顧客の近くの倉庫にあらかじめストックしておく。

自動車産業

AI / 機械学習による自動運転技術・道路交通情報通信システム。

先輩からの声

- ・これから必要になってくると思った。
- ・自分の知見を広げることができた。
- ・定性的な見方と定量的な見方ができるようになった。
- ・データサイエンスは初めて習ったが非常に興味深かった。
- ・データサイエンスがどういうものなのかが理解できた。
- ・日常生活でも活用されていることを知ることができた。
- ・データを読み取る力がついた。



熊本大学 大学教育統括管理運営機構

附属 数理科学総合教育センター

黒髪北地区 全学教育棟 A 棟 3F



お問い合わせ >>

E-mail: msec-office@kumamoto-u.ac.jp

工学部 3 年次編入学定員の増員について

学 科	入学定員
土木建築学科	10人 → 10人
機械数理工学科	10人 → 12人
情報電気工学科	20人 → 35人
材料・応用化学科	5人 → 8人
全 体	45人 → 65人

※令和5年度の入学定員（予定）であり、今後、変更の可能性がある。